神に賞賛される生き方

「物の見方」〜全ては祈り〜

I テモテ 2:1~7

世の中では、様々な問題が起こっています。そして毎日様々なニュースが飛び交います。昨今では SNS で多くの情報が発信されています。皆さんはそれらをどのように見て判断しているでしょうか?誰か一方からの話だけを聞いて判断すると偏った目線となります。先週も I テモテから物事をどのように見ていくかを学んできています。「この命令は、きよい心と正しい良心と偽りのない信仰とから出て来る愛を、目標としています」(I テモテ 1:5)

神様の命令は、偽りのない私たちの良心から出てくる事と、そこか ら生み出される愛が目標であり十戒です。

この神の戒めである十戒は、罪を指摘する裁判官や、パリサイ人のような人を裁くものにならせる為ではなく、私たちが罪人であることに気づき「神様ごめんなさい」と言えるためにある事を学んできました。福音(神・罪・救い)は罪を知ることから始まります。自分の正しさを正当化するものではありません。

【加賀乙彦さんのエッセイから】

作家で医学博士である加賀さんはコリント人への手紙4章4節から、「その場合、この世の神が不信者の思いを膨らませて、神の形であるキリストの栄光に関わる福音の光を輝かさない様にしているんだ」と福音を引用して悪魔の存在を教えています。

彼は、死刑囚とか、人を殺してしまった人と関わりながらエッセイを 書いていきました。

殺人を犯してしまった、多くの囚人は「なぜ、あんな事をしてしまったのか分からない」と、「その時カッとなり、自分でもよく覚えていない」と言うそうです。彼らは、刑務所にいますから一見悪そうに見えますが、話せば私たちと同じ人ですし、優しい心を持ち、涙脆いところもあります。「母親に、悪いことをした」とも言います。彼らと、私たちは一体何が違うのでしょうか?私たちは心の中で何かに語りかけられ、誘惑されていきます。人を殺すまでいっていなくても、「あんな奴、いなければいいのに」と思った事があるでしょう。私たちはいつも悪に誘惑されて生きています。

【神から離れたリーダーが行った悪による神の益】

《ファラオ》

十戒というとモーセを通して与えられた十戒とファラオという王様 を思い出します

初子が皆殺しにされていた時代に川に流され、王家に拾われファラオの弟として育てられたのがモーセでした。モーセはある日、自分の同胞が奴隷として苦しめられるのを見て、自分の部下を殺してしまいます。そして、80 年モーセは荒野に逃げました。しかし、そのモーセがエジプトからイスラエルの民を救い出しました。ファラオが民を奴隷化した中で、神様がモーセとイスラエルの民を愛してカナンの地に導くことを、このファラオの行いを通して教えています。

≪3代目へロデ王≫

ヘロデ王は、救い主の誕生の預言が自分の王位を揺るがすものだと恐れ、民に住民登録をさせる事を命じました。キリストはその為、聖書の預言の通りベツレヘムで生まれることになりました。そして、ヘロデが3歳以下を殺したことで、キリストの神聖が増し加えられました。

《毛沢東》

毛沢東の中国の大躍進政策によって、宗教は禁止され、宣教師達は 追放されました。その人数は 7000 人と言われています。しかし、結 果 7000 人以上のキリスト教のリーダーが立てられました。毛沢東は この政策でキリスト教が国から無くなると思ったが、そうはならず、 益々救いが起こりました。中国は毛沢東によって宣教されたとまで言 われています。

これらを見ても、一人の人の悪で、神はそのマイナスを益にされたことがわかります。救いの原理は、罪による犠牲の代償による救いなのです。この世の悪・理不尽が、神によって益にされる(ローマ章8章)ことが理解できます。この地によって迫害にあうが、後の賞賛をうけることは聖書の原則です。

【これらの神の救いの原理をもって】

『そこで、まず初めに、このことを勧めます。すべての人のために、また王とすべての高い地位にある人たちのために願い、祈り、とりなし、感謝がささげられるようにしなさい。』(Iテモテ 2:1)

十字架によってイエス様が殺されたので、キリストは一人の人のとりなし手であり、神は全ての人の神であって唯一の神であることを証明しました。

一人の人が間違った独裁を行い、酷い目にあった人達がいましたが、神様はそれを用いて益として下さいます。聖書の原点は罪による犠牲の代償による救いです。

神様はこの地で、神の御言葉にあってそこに立つ人を祝福します。この地にあっては迫害にあいますが、後の時代になると、多くの冠を受ける賞賛に値する恵みとなります。

『そうすることは、私たちの救い主である神の御前において良いこと であり、喜ばれることなのです。』(Iテモテ 2:3)

「そうすること」とは、私たちが平安に静かに過ごす事です。なぜ、 平安に静かに過ごす必要があるか?→平安でないと良い判断が出来ないからです。なぜ、良い判断をする必要があるのか?それは、私達の 第一義的役割が祈ることである為です。私たちは、祈るためにこの地 で役割を与えられています。

『すべての人のために、また王とすべての高い地位にある人たちのために願い、祈り、とりなし、感謝がささげられるようにしなさい。』(I テモテ 2:3)

というのは、神によらない権威は一つもないので、高い地位の人たちに従えと聖書は言っているわけではありません。現代の様な階級社会を作らなければならなかったのは、神ではなく、人を自分たちを治める王としたいと思った人類です。その地位を持った人達のために祈らなくてはなりません。

『神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。』(I テモテ 2:4

真理→私たちは神に愛されて造られたのに、その愛から離れて罪に歩み、その罪を赦すために、キリストは自分が犠牲となり十字架にかかりました。その十字架上でキリストも祈られました。

【ルター】

ルターは、ローマの教皇主義に抵抗しました。(特に免罪符に対して) その中で、悪魔はルターを堕落させようと誘惑します。ルターは否定 的な言葉に誘惑をうけそうになりますが、祈りました。そして悪魔に 打ち勝ちました。彼は迫害され排除されましたが、彼の行動は、無に はなっていません。彼のこの行動が無ければ、今のキリスト教会はな い事は周知の事実となりました

さいごに…

彼はどんな状態になっても祈り続けました。「服を作るのが仕立て屋 の仕事であり、靴を直すのが靴屋の仕事であるように、祈ることはク リスチャンの仕事である。」「祈りはとりなしによって活発され、懇願 によって差し迫ったものとなり、感謝によって喜ばしい神に受け入れ られる祈りとなる。力強くかつ受容的な態度で祈ることによって私た ちは願うものを確かに受けるのである。」とルターは語っています。 世の中の悲惨なニュースや困難な問題を見れば、不安や怒り、恐れが あります。しかし、それに飲み込まれ、影響されるのではなく、私達 は「祈る」ことができます。あなたの祈りは、心を騒がせるものによっ て妨げられていないでしょうか?もし問題があるなら、その問題に対 して神様は何を言われているかを祈りによって受け取りましょう 『そこで、まず初めに、このことを勧めます。すべての人のために、 また王とすべての高い地位にある人たちのために願い、祈り、とりな し、感謝がささげられるようにしなさい。それは、私たちが敬虔に、 また、威厳をもって、平安で静かな一生を過ごすためです。そうする ことは、私たちの救い主である神の御前において良いことであり、喜 ばれることなのです。神は、すべての人が救われて、真理を知るよう になるのを望んでおられます。』(I テモ 2:1~4)

(要約者: 辻総一郎)